

社団法人日本自閉症協会
奈良県支部ニュース

絆

きずな

第55号 8月号

購読料1部100円

(会員は会費に含まれています)



絆のロゴマーク募
集中!



発行: 社団法人日本自閉症協会 発行責任者: 穴戸良朗
支部長&事務局: 河村舟二 〒639-1055 大和郡山市矢田山町84-10
TEL&FAX 0743-55-2763

<http://www2.justnet.ne.jp/~kawafune>

話題のドキュメンタリー映画

「able/ エイブル」

新聞やテレビで紹介されている映画「エイブル」(小栗謙一監督)が大阪でも公開されています。

ダウン症と自閉症の知的障害のある2人の少年がアメリカでホームステイをしながら成長する様子を描いたドキュメンタリー映画です。小栗監督がこの映画の前に製作した番組、「スペシャルオリンピックス」と呼ばれるNPO活動、とともに療育部役員さんたちの話題にも上がっています。「奈良県支部で、エイブルの上映会は出来ないか?」とか、「スペシャルオリンピックス奈良」を作れないか?とか、タイトルの「able」は「可能性」という意味だそうです。できる、できないにこだわるから、できないことはよくないことなり、社会がそういう価値判断に傾きつつある。2人の少年の姿は、秘めた可能性の素晴らしさを教えてくれるとのこと。映画館まで足を運べる方があれば、ご感想等聞かせてください。以下は金本さんが調べてくださいました。

「エイブル」 ロードショー
シネ・ヌーヴォ(06-6582-1416)
地下鉄中央線 九条駅 6番出口
上映日程および、上映時間
7月27日~8月9日
10:40 12:40 14:40
16:40 18:40 (2時間上映)
8月10日~8月30日
10:30~ 1本のみの上映 予定

【堀智晴氏推薦】映画『able/エイブル』は、ここ数年の映画の中で、とびぬけて魅力的な2人の登場人物を主人公にしたドキュメンタリーである。これは、知的障害のある人々それぞれの「可能性=able」の物語であるとともに、ある意味で、いわゆる健常者とよばれる人間が、知らず知らずに意識している「知的障害」という先入観を破って、彼ら一人ひとりとつきあっていく「可能性=able」の物語でもあるといえるだろう。なお、本作は2001年毎日映画コンクール記録文化映画賞を受賞した。



要望書の提出報告

7月17日(水)、支部長はじめ成人部、療育部、事務局役員9名で県庁障害福祉部へ、県知事宛の要望書「奈良県で自閉症に対して、総合的で一貫した諸施設を医療、福祉、教育、就労にわたって推進・実現してもらうことを目指した要望事項」を提出してきました。

自閉症協会奈良県支部に対して、時間を取ってもらえたことが、まず一歩だとは思いますが、障害福祉部の3名の方々との話し合いのなかで、自閉症に対する理解には、本当に厳しいものを感じました。私達の子供たちは自閉症という障害を持つとわかってこの世に出てくるわけではありません。どの様な障害課題を持って生まれてきたとしても充実した人生を送る為に、これからも繰り返し私達の声を送り続けていかねばと思いました。皆様一人一人の声が大切です。これからも御協力よろしくお願いいたします。

(和知 記)

第21回評議員会 について

議事録

社団法人 日本自閉症協会

1. 日 時

平成 14 年 5 月 12 日 (日) 11 時から 13 時まで

2. 場 所

東京都府中市日鋼町1140安田生命アカデミア

3. 出席者

評議員 47 名のうち、出席者は、計 16 名遅刻出席者 3 名委任状提出者 27 名

欠席者は、中原智恵の 1 名であり、定款第 43 条により本評議員会は成立なお、監事は小林哲弥監事、横地利益監事が出席した。

4. 議長及び議事録署名人の選出など

定刻に至り司会者事務局長山本衛が開会を宣し、定款第 42 条の定めにより議長を選出するよう諮ったところ、満場一致で河村舟二評議員が選出された。議長は、議事録署名人に宮沢勤評論員及び山根一枝評議員を指名し満場異議なく選出された。

5. 各部会等報告

議長は、出版部会、研究部会、事務局からの報告を求めた。

(出版部会報告) 出版部会長の古屋理事から、別添資料に基づき「いとしご」及び「心を開く」の発行状況、発行計画、「ガイドブックシリーズ 乳幼児編」の発行状況、「ガイドブックシリーズ 学齢期編」の発行計画について報告した。

また、「いとしご 74 号」において全国大会への参加呼びかけ、「自閉症・発達生涯支援センター設置要綱(案)」の概要を掲載したこと、郵政事業の民営化の動きに伴い、郵便低料第 3 種の廃止の動きがあること、「いとしご」を A4 版に変更することを検討していること、「心を開く 31 号」の企画案、「心を開く」の名称の再検討を行っていることを報告した。

(研究部会報告) 研究部会長の山崎理事から、厚生科学研究費による研究について、平成 13 年度の研究結果について報告された。また、新たに「こどもの特別支援対策」として自閉症の生物学的な研究の研究班をつくったらどうかとの依頼があり、DNA 画像診断、精神整理を三つの柱にしてスタートする準備をしている旨報告された。

4 月 27 日には、児童精神科医と小児精神科医が中心になって「自閉症超早期療育研究会」を立ち

上げる会があったこと、日本児童青年精神学会にある倫理検討委員会で、「三角頭蓋の手術」について倫理的な視点から再検討してもらうため、5 月 25 日に鹿児島で開業している伊地知先生をお招きして検討することにしていることが報告された。

(事務局報告) 山本事務局長から、別添資料に基づき次の報告があった。

1 事務局体制の異動 2 全国社会福祉団体職員退職手当積立基金からの脱退 3 14 年度会議等予定 4 支部別会員数などの動き 支部別会員数推移表 平成 13 年度支部別会員数及び会員管理事務移行状況表 5 平成 15 年度国の予算要望項目 6 第 3 回顕彰事業 自閉症支援実践賞 事業報告 7 ホームページ委員会報告

議長は、以上の報告に対する質疑を求めた。

(報告に対する質疑等)

出版部報告に対し、「心を開く」の名称変更は、広く会員の同意のもとで進めてほしいとの要望があり、出版部長から「いとしご」で意見を寄せていただくよう掲載したが反響が無かった。今後は支部を通して意見を吸い上げたい旨回答された。

研究部会に対し、地方にいる専門家にも研究のチャンスを与えてほしい旨要望があり、研究部会長から、数年前に全国から研究部会委員を推薦していただき 45 名程度の名簿を作成したが、今後も欠落しているような方があれば支部から申請をお願いしたい旨回答された。

事務局報告で、研究部会研修会は今年は未定との報告があったが、どのようになっているのかとの質問があり、研修部会長から、例年は児童青年精神学会が開催されて、終了した翌日に開催地の支部が主催して実施してきた。今年は東京なので東京都支部をお願いしたが、東京では頻繁にそうした会があること、支部としては力不足で今回はやらないと連絡された。過去にも実施できなかったことがあったが、支部主催と関係なく実施すべきと、のことなら協議するとの回答があった。石井会長から、この件は後ほど相談したい旨発言があった。

事務局報告のうち、国の予算要望項目の 5 番目の学校教育法関係の中に「自閉症者」となっているのは「者」で良いのかとの質問があり、須田副会長から、養護学校設置のための施行令に記載されている五つの障害は全て「者」となっているの

で「自閉症者」とした旨回答された。

出版部報告で、郵便低料第3種の廃止の問題があったが支部の会報の郵送等で影響がある。本部でもどの程度影響があると考えているかとの質問があり、事務局から「いとしご」は現在15円で発送しているが、それが80円になるので年間で200万円ほどの増になる旨回答された。以上で報告に対する質疑等を終了し議事に移った。

6 議事の経過の概要及びその結果

(議案の審議)

第1号議案 理事の選任に関する件

議長は、議案の説明を求め、事務局長は、別紙資料「理事の選任に関する件」に基づき、三浦貫常務理事の退任と、後任に山本衛事務局長を選任すること、理事会推薦理事を1名増員し、氏田照子氏を推薦することについて説明した。質疑等はなく、異議なく承認され、総会に諮ることとされた。

第2号議案 平成13年度事業報告書及び決算報告書承認の件

議長は、議案の説明を求め、事務局長から、別添資料「平成13年度事業報告(案)、平成13年度決算報告書(案)」により説明された。

続いて、監事監査報告を求め、小林監事から4月16日に協会事務局において横地監事と共に一般会計と特別会計の監査を実施した。その結果、この計算書類はいずれも適正であると認めた旨報告された。

議長は、質疑を求めた。

(第2号議案に対する質疑等)

在宅介護の家庭支援事業は、介護教室を新潟と愛知で実施したことになっているが、愛知では療育相談会を実施した。助成金を受ける際の名称と実際に行った事業の名称が違っていると報告審を読んで判らないし紛らわしい。また、決算書の備考欄には、実施場所が石川と愛知となっているが、どちらかがミスプリントではないかとの意見及び質問があり、事務局から今後助成金による事業内容を紹介する際には、事業内容を細かく説明し判りやすくしたいこと、また、決算書の備考欄の石川は新潟のミスプリントであるので訂正をお願いしたい旨回答があった。

高機能自閉症と発達障害児の本人及び親の活動支援事業に、岐阜支部も実施したことになっているが、岐阜県支部では実施していない。協会がもらった助成金を会員が一人もいない支部以外のグループに助成するのはいかがなものかとの意見があり、石井会長から、協会が助成金をもらって

るわけだから協会支部の活動を優先して助成することは当然だが、社団法人として社会的ないろいろな活動を支援していかなければならない立場もあるので、こうしたことはまま起きることがあると思う。今後も、助成金の情報等は各支部に必ず連絡するようにする。支部でも地域でのいろいろな活動をしているところと積極的に連携していただきたい旨回答があった。

自閉症対策の推進と助成の要望のところで、自民党に対して要望したことが報告されているのは、非常に積極的な活動で評価するが、他の与党や野党にも全方位的に行ってほしい旨用要望があった。

決算の貸借対照表に、3800万円の定期預金があることになっているが、これではペイオフ対策はとれたかどうか判らない。後日でよいが預金先の銀行名等を明示してほしい旨要望があった。以上で質疑等を終了し、議長が裁決を求めたところ満場異議なく承認され、平成13年度事業報告及び決算報告は、総会に諮ることになった。

第3号議案 平成14年度事業計画書及び予算書承認の件

議長は、議案の説明を求め、事務局長は別添資料「平成14年度事業計画書(案)・平成14年度収支予算審(案)」について説明した。

議長は、質疑を求めた。

(第3号議案に対する質疑等)

日本障害者協議会からはこれまで貴重な情報を得ている。支援費問題でも情報が多いので加入していないようなら検討してほしい旨要望があった。

高機能自閉症と発達障害の活動支援事業について、滋賀県でも支部に所属していないグループの活動があり、親として大変苦労している。協会が支部以外のグループにも助成するという事は納得できない。各県の事情に十分配慮して事業を進めてほしい旨要望があり、石井会長から、支部以外のグループから要望があったような場合、支部に確認してから対応するようにしたい旨回答された。

以上で質疑等を終了し、議長が裁決を求めたところ満場異議なく承認されたので、平成14年度事業計画書及び予算書は、総会に諮ることになった。以上をもって、午後1時、議長は閉会を宣し解散した。



バリアフリーキャンペーン

各支部支部長 様

2002年6月12日

社団法人日本自閉症協会

会 長 石井哲夫

「バリアフリーキャンペーンへの協力をお願い」
拝啓

初夏の候、ご清祥にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。日頃のご協力に深く感謝申し上げます。さて、当協会では手引きやガイドブックなど様々な方法で自閉症の啓発に努めておりますが、このたび毎日新聞が行っている「バリアフリー」キャンペーンに賛同し、さらなる「自閉症のバリアフリー」を推進して参りたいと考えております。

今年は、欠格条項の見直し、新障害者計画の策定などが行われる大変重要な年です。国会や中央省庁に対して影響力を持つメディアを利用して自閉症協会側のアピールを行うことは大変に意義があると思います。つきましては、支部におかれましても本キャンペーンの主旨をご理解頂き、毎日新聞の「バリアフリー」キャンペーンの紹介(別紙)と協力をお願いを周知させていただきたく、お願い申し上げます。尚、毎日新聞は47都道府県の県庁所在地と主要都市に計300を超える支局・通信部・駐在がありますが、この「キャンペーン」により、これらの支局や通信部に「地元の自閉症協会関係の『おしらせ』記事や、行政への要望などを積極的に紙面に掲載する」ことが通知されます。また、キャンペーンに賛同して毎日新聞を購読してくれる人が増えれば、自閉症や協会に関する記事を書けるコーナーをもっと拡充させてもらうことが可能となります。この点についても会員の皆さんに是非PRしてください。なお、当協会では特定の会社(毎日新聞)のみを支援するつもりはないことを念のため付け加えます。「バリアフリー」キャンペーンの詳しい内容につきましては、別紙『みんな一緒～バリアフリー新世紀にご協力を!』をご参照ください。支部の皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。 敬具
「みんな一緒～バリアフリー新世紀」にご協力を!

● 1000人の声を国へ届けよう

毎日新聞は5月から「バリアフリー」キャンペーンを始めています。生活家庭面に毎週1回「障害のある人のためのコラム」を常設しました。毎月1回「障害者のページ」(東京本社管内)も常設し

ます。6月からは「みんな一緒～バリアフリー新世紀」という連載を断続的に載せます。「欠格条項」「新障害者プラン」「障害者権利条約や差別禁止法」「障害者雇用」などがテーマです。差別制度・欠格条項、新障害者プランについて、みなさんの意見を募集し、毎日新聞に掲載します。1000人の声を集めて国民や国会、内閣府、厚生労働省へ届けましょう。

意見はファックスかメールでお願いします。

FAX 03 - 3212 - 0256

e-mail t.seikatsu@mbx.mainichi.co.jp

(〒100 - 8051東京都千代田区一ツ橋1の1の1毎日新聞生活家庭部バリアフリー係)

● 障害者にとって今年は大変な1年です

新障害者計画の策定作業は7～8月に山場を迎えます。国連の障害者権利条約、アジア太平洋障害者の10年最終年のイベントなど、今年は大変な1年です。政治や行政やマスコミに障害のある人の存在をもっと強力にアピールしなければなりません。そのために、国会、中央省庁、経済団体、報道機関などに毎日届けられる新聞にメッセージが載ることは大きな意味があります。

● バリアフリー専用ダイヤル 0120 - 807 - 012

毎日新聞のキャンペーンは読者の支持、つまり購読者が増えれば続きますが、増えなければ打ち切り(苦笑)です。「バリアフリー専用フリーダイヤル」(0120-807-012)へ購読申し込みをしてください。1年限りでも結構です。各団体の大会やシンポジウム会場で配布される購読用リーフレットのはがきで申し込んでください。それ以外の方法で購読してもキャンペーンにとっては意味がありません。(野沢和弘・毎日新聞記者/日本自閉症協会出版部)





講演会・研修会 いろいろ情報



社会福祉法人北摂杉の子会

大阪自閉症支援センター主催

「自閉症児・者の余暇活動を支援するボランティア育成セミナー」

内容：

自閉症の特性の理解の上に立った余暇活動の支援のあり方についての講義と実習を含んだセミナーです。協力児の参加を得て今回はプール活動（着替え等も含む）におけるボランティアとしての支援の実践をテーマとして取り組みます。行動の観察による評価と目標設定、一人一人にあわせたスケジュールや視覚支援の方法について、実習してもらいます。即実践の場で役立てて頂けるような内容となっておりますので、是非ご参加ください。

日時：平成14年1回目8月26日（月）

10:00～12:00 プール活動の準備

1:00～4:00 プール活動の実施と再検討

2回目8月27日（火）

10:00～12:00 プール活動の実施

1:00～4:00 まとめ

対象：

自閉症児・者の支援活動に関心があり、将来ボランティア活動を義す学生又は社会人の方

講師：

大阪自閉症支援センター

療育主任 谷岡 とし子 他

定員：

10名（先着10名。定員を超える場合は自閉症支援センターを発展させる会オアシス現正会員を優先させていただきます。）

参加費：

大阪自閉症支援センターを発展させる会オアシス正会員 無料

上記以外の方 1,000円

会場：

社会福祉法人 北摂杉の子会 大阪自閉症支援センター（大阪市営地下鉄 御堂筋線長居駅下車 東へ徒歩8分）参加決定者には詳しい地図を送ります。

申し込み方法：

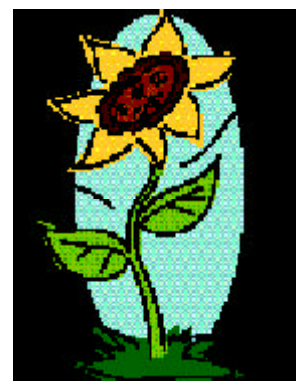
往復はがきの往信欄に ボランティア育成セミナー受講 氏名、学生の方は学校名及び学部名

（社会人の方は勤務先と職業） 連絡先の住所・電話番号、受講理由、今までに当センター主催の研修を受けられた方は、受講年、研修内容等を記入してください。

申し込み締め切り：8月21日（水）ただし、定員になり次第締め切ります。受講通知：申し込みはがき受理しだい受講通知を郵送します。

申し込み・問い合わせ先：〒558-0004大阪市住吉区長居東2-2-4加島ビル3階社会福祉法人北摂杉の子会 大阪自閉症支援センター事務局 荒木まで

tel:06-6607-2249 fax:06-6696-8613





講演会・研修会 いろいろ情報



「自閉症カンファレンスNIPPON」

TEACCHモデルに学ぶ実践研究会

とき：2002年9月7日(土)～8日(日)

ところ：早稲田大学 西早稲田キャンパス14号館

対象：自閉症の療育に関係する教師、施設職員、親、専門家など

定員：1,000人

参加費：10,000円

2002年9月7日・8日早稲田大学14号館が、まるごと自閉症ワールドに！

国内最大の自閉症の専門会議です。

自閉症の療育システムとして、今や世界的潮流となっているTEACCHプログラム。その実践者が日本全国から集結します。定員1,000人という規模の自閉症専門会議は、国内史上最大、初めてのもの。全国各地の実践の成果を、その目、その耳で確かめるチャンスです。

TEACCHプログラム生みの親も来日。

TEACCHプログラムが日本に紹介されて20年目の夏。その創設者エリック・ショブラー教授も駆けつけます。今から30年前に米国ノースカロライナ州で公認されてから全世界に伝えられ、脈々と受け継がれ続ける哲学は「自閉症療育者のこころ」と言えます。ショブラー教授のコメント、レクチャーから今一度TEACCHプログラムの真髄に触れます。12の分科会から選べるセッションは最大10！

全国各地からの実践報告や発表の総数は52セッション。12の分科会に分かれて登場する約55人がどのようなプレゼンテーションを行うか、見逃せません。各分科会、セッション間の移動は自由ですので、いろいろな分野を渡り歩くことも可能です。(第5分科会以外。またセッション中の会場の出入りは不可)ご自分の興味と関心に合わせてたくさんの情報を集めてください。

主催 自閉症カンファレンスNIPPON実行委員会・朝日新聞厚生文化事業団

後援 文部科学省・厚生労働省・日本自閉症協会・全日本手をつなぐ育成会
日本知的障害者福祉協会・テレビ朝日福祉文化事業団・安田生命社会事業団

申し込み

所定の「参加申込書」でお申し込みください。「参加申込書」のご請求は、氏名・住所・電話番号を明記のうえ、FAXかE-mail、はがき、または電話で下記へ。

朝日旅行会『自閉症カンファレンスNIPPON』受付事務局

〒101-8587 東京都千代田区神田岩本町2番地

TEL 03 - 3256 - 9201 FAX 03 - 3252 - 5325 E-mail:

ovs@asahiryoko.co.jp

なお、6月17日(月)以降は以下に移転になります。

〒104 - 0061 東京都中央区銀座3 - 2 - 16(TEL、faxはそのままの番号でご利用になれます)

内容に関するお問い合わせは主催事務局にご連絡ください。朝日新聞厚生文化事業団『自閉症カンファレンスNIPPON』事務局

〒104-8011 東京都中央区築地5 - 3 - 2 TEL 03 - 5540

- 7446 FAX 03 - 5565 - 1643

NHKハート展

応募要項

応募資格：障害のある方。年齢は問いません。

応募内容：100字程度の自作の詩。作品には題名をつけてください。テーマは自由ですが未発表のものに限ります。たとえば、「生きる」「ときめき」「家族」「ともだち」「希望」「勇気」など、日頃の自分の気持ちを自由に表現して下さい。複数応募できます。

応募方法

詩に 名前(ふりがな) 郵便番号・住所 電話・FAX番号 年齢 障害者手帳などによる障害の種類を添えて郵送して下さい。

点字やワープロによる作品も受け付けます。インターネットによる応募も受け付けます。

<http://www.nhk.or.jp/heart/>

入選

応募作品の中から50編を選び、入選とします。

作品発表

「NHKハート展」を平成15年4月から一年間東京など全国各地で開催する予定。

選考結果

平成14年11月中旬ごろ本人宛にお知らせします。

作品の応募・問い合わせ

NHK厚生文化事業団「NHKハート展」係

〒150-0047 東京都渋谷区神山町4-14 第三共同ビル6階

tel: 03-3481-7855 FAX: 03-3481-7674

応募締め切り平成14年9月13日(金)必着



講演会・研修会 いろいろ情報



ノーマリゼーションセミナーin京都

「自閉症の教育や支援について」の分科会あり

9月22日の分

主催：ノーマリゼーションセミナーin京都

実行委員会；

N.Eバンク・ミケルセン記念財団；京都新聞社会

福祉事業団

時：2002年9月21日（土）12:45～

9月22日（日）15:30

場所：京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」

京都市南区九条下殿田町7（京都駅八条口南へ徒歩10分） 075-692-3400

セミナー参加費：6,000円、

交流会参加：6,000円、

2日目の昼食1,000円で用意

参加定員：800人（定員になり次第締め切り最終8月23日）対象者：関心ある人誰でも

問い合わせ：実行委員会事務局

〒619-0238京都府相楽郡精華町精華台5-1-4「社会福祉法人相楽福祉会」内

：0774-93-3277 fax:0774-93-3271



スペシャルオリンピックス

知的障害のある人たちに水泳やサッカーなどさまざまなスポーツトレーニングを行い、成果発表のための競技会を開催する活動。世界大会も開かれている。「障害者はできないのではない。社会が彼らをできないと思って、できなくさせているのだ。」スペシャルオリンピックス創設者の言葉

（上島 記）

第10回 自閉症理解講座

日時：

2002年 9月14日（土曜日）

13:40～16:30（受付13:15～）

場所：奈良市総合福祉センター

TEL 0742-71-0770

講演 「自閉症の理解と支援」

講師 門眞一郎（京都市児童福祉センター）

申込 不要

資料代 会員は無料 一般 500円

主催 日本自閉症協会奈良県支部

問い合わせ

河村まで（TEL 0743-55-2763）

生活支援センター「あすく」での取り組みについては「あすく」の職員の方に後日お話をいただく機会があればと思っています。門先生には自閉症を理解し、その上で支援していくことの大切さをお話して頂けるようお願いしています。是非、いろんな方にお知らせの上、ご参加ください。門先生のホームページもすごく楽しいので、開いてみてください。

児童精神科医 門眞一郎の落書き帳 <http://web.kyoto-inet.or.jp/org/atoz3/kado/index.htm>

門眞一郎先生の自閉症理解講座

門先生の名前の訂正

7月号「絆」で講演者名、門眞一郎となっていました。門眞一郎が正しい名前です。お詫びと訂正します。申し訳ありませんでした。

事務局から

本年度の会費がまだ未納の会員さんへ

お手数ですが最寄りの郵便局に備え付けの振込用紙で、会計の岡澤さんの口座に振り込んで下さい。

絆をお送りしている封筒の下に口座番号名義が載っています。(本年度の本部総会で規定第4条中の10月は5月に改められ、「会費の納入は年一回とし、毎年度5月に納入しなければならない。ただし、新規会員は、入会時に入会金及び当該年度の会費を納入するものとする。」となりました。少々遅れてもよいようです。

社会福祉医療事業団から3名の方が昨年度の自閉症児者支援ボランティア養成事業について成果のヒヤリングにこられます。今後の助成をお願いできる場にもなると思いますので、都合のつく方は是非ご参加下さい。

日時:平成14年8月21日午後2時から1時間程度

場所:大和郡山市福祉会館2階会議室

平成13年度厚生科学研究「高機能広汎性発達障害の社会的不適応行動とその対応に関する研究」自閉症協会会長 石井哲夫先生 主任研究 研究報告論文が事務局に1部届いています。

前回お願いしたTDR(東京ディズニーリゾート)のゲストアシスタントカード廃止についてのご意見。および会報についての貴重な皆様のご意見本部に伝えておきました。



第14回フレンドシップトレイン ひまわり号

「列車に乗ってみたい」「旅をしたい」という障害者の願いをみんなの力で何とか実現させようということで、この取り組みが始まりました。

1982年の11月3日、初めて「ひまわり号」が上野-日光間を走ったのを皮切りに、年々各地へと運動の輪が広がり、近年は80本以上もの「ひまわり号」が全国を駆けめぐっています。奈良でも1989年10月29日、須磨海浜公園へ向けて走らせて以来、毎年数え切れない人々の様々な思いをのせて

「ひまわり号」は走っています。全国各地で「ひまわり号」が走ったことをきっかけに、その出発地や自的地で、駅の改善や街づくりの運動が進められてきています。

2002年11月3日(日)発車 障害者の夢と希望を乗せて 京都 東映太秦映画村へ行きます。今年のひまわり号は、京都東映太秦映画村へ出かけます。かつらを着けて立ち回りをするもよし、テレビであなじみのあの奉行所など見学するもよし、もちろんあ店もたくさんあります。家族で、また、友達を誘って楽しい1日を過ごしましょう。

参加者・ボランティア募集申!

停車駅 JR高田・天理・JR奈良

参加費

大人4000円 小学生2500円 小学生未満 無料
受付 8 / 1 ~ 9 / 4

定員 350名

郵便局口座番号 01020-4-15206 奈良ひまわり号

連絡事項

1. ひまわり号は、弁当が注文になります。弁当を注文されない場合は、必ず持参下さい。
2. 定員になりしだい締め切りますので、早めに申し込んでください。
3. 家族・友人等で障害者の介助で参加される方は、同伴者の欄に記入ください。
4. ひまわり号発車時刻は、高田始発7:30の予定です。到着時刻、高田終着18:00の予定です。
5. 日程及び集合時間等の詳細は、ひまわり号発車の一週間前に、各ご家庭にはがきを郵送します。主催「ひまわり号」を走らせる奈良実行委員会
<参加申込先> 奈良市登大路36番地大和ビル4階 奈良合同法律事務所内「ひまわり号」を走らせる奈良実行委員会宛
TEL 0742 - 26 - 2457 FAX 0742 - 26 - 3010

編集後記

暑中お見舞い申し上げます! 暑い暑い夏ですね! 体調に注意されてこの夏を乗り切りましょう! 支部ニュースについての感想、ご意見等がありましたら、穴戸(0742-49-3855)までか、または、最寄りの支部役員までお願いします。